

コイ



ひげはよくみると4本ある。品種改良されて赤、白、金色など様々。肉食性が強い雑食で、貝など泥の上の小動物などを好んで食べる。長生きである。オオクチバスなどとは別の意味で、無計画な放流は、その場の「生態系」を破壊する。60cm。

ギンブナ



コイに似るがひげはない。仲間のキンブナより体高が高い、背びれのすじの数(条数)が多い(15以上)などの差があるが、ゲンゴロウブナも含めて区別が難しい場合も多い。30cm。

オイカワ



体は銀色だが、成長したオスは春から夏に体の横が緑色と赤色になる。ジャンプ力が強いが酸欠に弱い。15cm。

カワムツ



体の横に太い黒線がある。胸びれ、腹びれ、尻びれが黄色い。15cm。

キンギョ



フナから人工的に作られた品種で、天然にはいない。

モツゴ(クチボソ)



タモロコに似るが、ひげは無く、上向き小さな口を持つ。銀色で、体の横に黒線があるものと無いものがある。丈夫で飼いやすい。8cm。

トウヨシノボリ



ハゼの仲間で、おなかに吸盤があり、背びれは2つ。大きくなると、ほほに赤点と尾びれの付け根が黄～オレンジ色になる場合が多い。川底の石の隙間に棲む。雑食性で飼いやすい。7cm。

ウキゴリ



ハゼの仲間で、おなかに吸盤があり、背びれは2つ。前側の背びれには黒白の斑点がある。頭の上は平らで目が離れている。肉食性で口が大きい。13cm。

ドジョウ



ひげが10本、川底の泥によくもぐる。体はぬるぬるでつかみにくい。水の汚れに強い。12cm。

ナマズ



ひげは小さいうちは4本だが、大きくなると2本になる。体はぬるぬるで、口が大きく、他の魚や蛙、ザリガニなどを食べる。60cm。

メダカ



背びれが体の後ろの方にあり、上からみると頭から背中に黒いすじがある。オレンジ色のものは人工的な品種。国や埼玉県、東京都などで絶滅のおそれがある種類に指定されている。群れで泳いでいることが多い(メダカの学校)。グッピーやカダヤシと見間違いやすい。4cm。

タモロコ



モツゴに似るが、ひげが2本ある。口はとがらず、胸びれ辺りから側線が急に上に曲がる。丈夫で飼いやすい。10cm。

ヤリタナゴ



ひげが2本、体高が高く、成長したオスは部分的に赤色と緑色になる。メスは産卵管が伸び、二枚貝の中に卵を産む。10cm。

オオクチバス



口が大きく、体の横に黒い不規則な模様が線状に並ぶ。背びれが2つで、前側は棘状。ナマズと同じように肉食性で、釣りを目的とした密放流で、在来の小魚を食い荒らして各地で問題になっている。外来生物法で、飼育や運搬が禁止されている。50cm。

スジエビ



体は透明で、黒褐色の縞がある。頭の先の角(額角)は長く、緩やかに上向き。水槽で飼うと魚をいじめる。5cm。

ミナミヌマエビ



体は透明、褐色、緑色など変化が大きい。スジエビに比べて小さく、額角や足も短い。種の特定には顕微鏡が必要。魚をいじめない。3cm。

アメリカザリガニ



体は食べる餌によって、灰色～赤色。ハサミの大きさも変化が大きい。関東地方ではザリガニはこれ一種しかいない。2年で6cmになり、卵を産むようになる。雑食性で、魚・貝・カエルや田んぼの稲なども食べる。初めは、ウシガエルの餌としてアメリカから移入された。8cm。

ヒメタニシ



カワニナに比べて丸くてころころしている。川底の泥や石の上を這っている。石や泥の上で育つ藻類や落ち葉などを食べる。卵ではなく、小さな貝を直接産む。3cm。

サカマキガイ



上かみるとタニシやカワニナと逆に左巻(反時計回り)になっているので'サカマキ'。水の汚れに強い。石の裏にゼリー状の卵を産む。1cm以下。

カワニナ



貝殻は細長くふたがある。川底の泥や石の上を這って、石や泥の上で育つ藻類や落ち葉、動物の死肉を食べる。ゲンジボタルの餌になる。比較的冷たい水を好む。卵ではなく、小さな貝を直接産む。

きれいな水の生物	すこしきたない水の生物	きたない水の生物	大変きたない水の生物
<p>カワゲラ</p>  <p>けい流の石の間や、流れがゆるやかで落ち葉などが積もるところに生息する。</p>	<p>ヒラタドロムシ</p>  <p>流れの速い瀬の石の表面について生活する。</p> <p>ゲンジボタル</p>  <p>体は黒色で、頭のように見える部分にトランプの「スペードもよう」がある。</p>	<p>タニシ</p>  <p>どろの底にすんでいる。タニシの主な種類は4種類。</p>	<p>アメリカザリガニ</p>  <p>流れのゆるやかな、浅い泥底にすんでいる。</p>
<p>サワガニ</p>  <p>甲らの大きさは20~40mm。水深が浅い石の下にいる。</p>	<p>カワニナ</p>  <p>石にくっついていたり、砂泥底にいたりする。</p>	<p>ニホンドロソコエビ</p>  <p>海水が少しまじったところのどろの底にすんでいる。</p>	<p>サカマキガイ</p>  <p>からのとがった方を上にしたときに、口が左側についている。</p>
<p>フユ</p>  <p>きゅうばんで、流れの速い所の石の表面や草についている。</p>	<p>イシマキガイ</p>  <p>石にくっついていたり、砂泥底にいたりする。</p>	<p>ヒル</p>  <p>水中にしずんでいる石などの、うら側にすんでいる。</p>	<p>セスジユスリカ</p>  <p>中型のユスリカで、大きさは10mmぐらい。</p>
<p>ウズムシ</p>  <p>プラナリアともよばれる。浅い流れの小川にいて、石の上を流れるようにはう。</p>	<p>オオシマトビケラ</p>  <p>からがかたく、石に付着している。主に、少し海水のまじったところにすんでいる。</p>	<p>タイコウチ</p>  <p>池や沼、水田などの流れのゆるやかな浅い場所にすんでいる。</p>	<p>エラミズ</p>  <p>赤色のユスリカは非常に多くの種類があり、上流のきれいな場所で見つかるものもある。</p>
<p>ヒラタカゲロウ</p>  <p>流れの速い清流の石に、体を密着させて生活する。</p>	<p>オオシマトビケラ</p>  <p>頭から胸にかけてかたく、色がこい。</p>	<p>ミズカマキリ</p>  <p>池や沼、水田などの流れのゆるやかな浅い場所にすんでいる。</p>	<p>エラミズ</p>  <p>大きさは最大40mmぐらい。水中の酸素量が少なくても生き続けることができる。</p>
<p>アミカ</p>  <p>きゅうばんを使い、急流の岩の上にくっついている。</p>	<p>コガタシマトビケラ</p>  <p>腹があざやかな緑色。</p>	<p>イソコツブムシ</p>  <p>少し海水のまじったところで、砂泥底や石の間にすんでいる。</p>	<p>チョウバエ</p>  <p>大きさは10mmぐらい。下水、排水こうなどにすむ。</p>
<p>ヘビトンボ</p>  <p>川底の石のトにいる。肉食性で水性昆虫を食べる。</p>	<p>ヤマトシジミ</p>  <p>少し海水のまじったところにすんでいる。</p>	<p>ミズムシ</p>  <p>体長は大きくなっても10mmぐらい。</p>	<p>大変きたない水の生物</p>
<p>ナガレトビケラ</p>  <p>上流の水温の低い、水のきれいな所にいる。石の上や間を歩く。</p>	<p>コオニヤンマ</p>  <p>流れの比較的ゆるやかな、よどみの底で生活している。</p>	<p>きたない水の生物</p>	
<p>ヤマトビケラ</p>  <p>体が太く、イモムシの形。砂つぶの巣をかついでいる。</p>	<p>スジエビ</p>  <p>黒がっ色のしほもよつかあ。</p>		

出典：H12.3 建設省東北地方建設局河川部河川調整課作成 水生生物調査用下敷き